

# 高齢者におけるビジョントレーニングの介入効果

キーワード:歩行、転倒、周辺視野、注視点、高齢者

- ▶ 高齢者は眼と手の協応動作が低下している
- ▶ 眼と手の協応動作は歩行速度と関連している
- ▶ トレーニングをすることによって視機能は改善する

## 高齢者における周辺視野と歩行能力の関連

■ 対象者:高齢者:44名(平均年齢75.79歳)

■ 評価項目

周辺視野:V-trainingシステムによる手眼協応課題  
(10個のターゲットを素早くタッチ)

歩行能力:Timed Up and Go(TUG)テスト、10m障害物歩行テスト

■ 統計解析:相関分析、重回帰分析(従属変数:手眼協応時間)

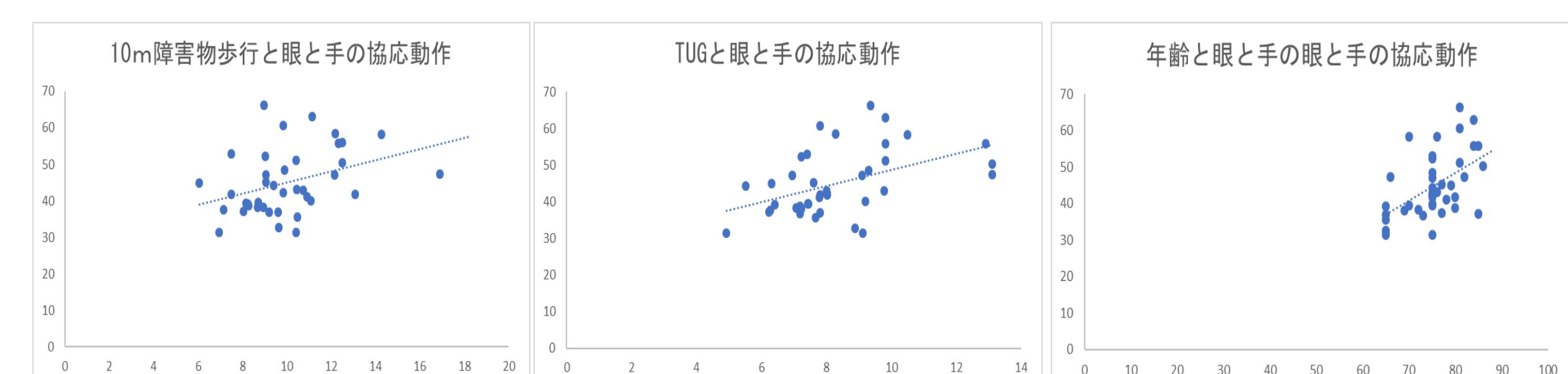


Table 4. Multiple regression analysis with total time as the dependent variable.

Multiple regression analysis with total time as the dependent variable		95% CI	p-value	VIF
Standard regression coefficients	Lower limit			
Age	0.435	0.211	0.972	0.003
10-m obstacle walk	0.336	0.214	2.34	0.02
Adjusted R <sup>2</sup>	0.332			
Excluded variables: sex, TUG				

CI: confidence interval; TUG: Timed Up and Go; VIF: variance inflation factor.

出典: Sudo, D. et al. (2025). Association between Peripheral Vision and Walking Ability in Older Adults. Open Journal of Therapy and Rehabilitation, 13(2), 64–73. <https://doi.org/10.4236/ojtr.2025.132007> 本ポスターはCC BY 4.0ライセンスに基づき作成されています。

## 視機能向上を目的とした高齢者へのビジョントレーニングの有効性

対象: 視覚機能や歩行に支障のない地域高齢者30名( $73.7 \pm 4.82$ 歳)

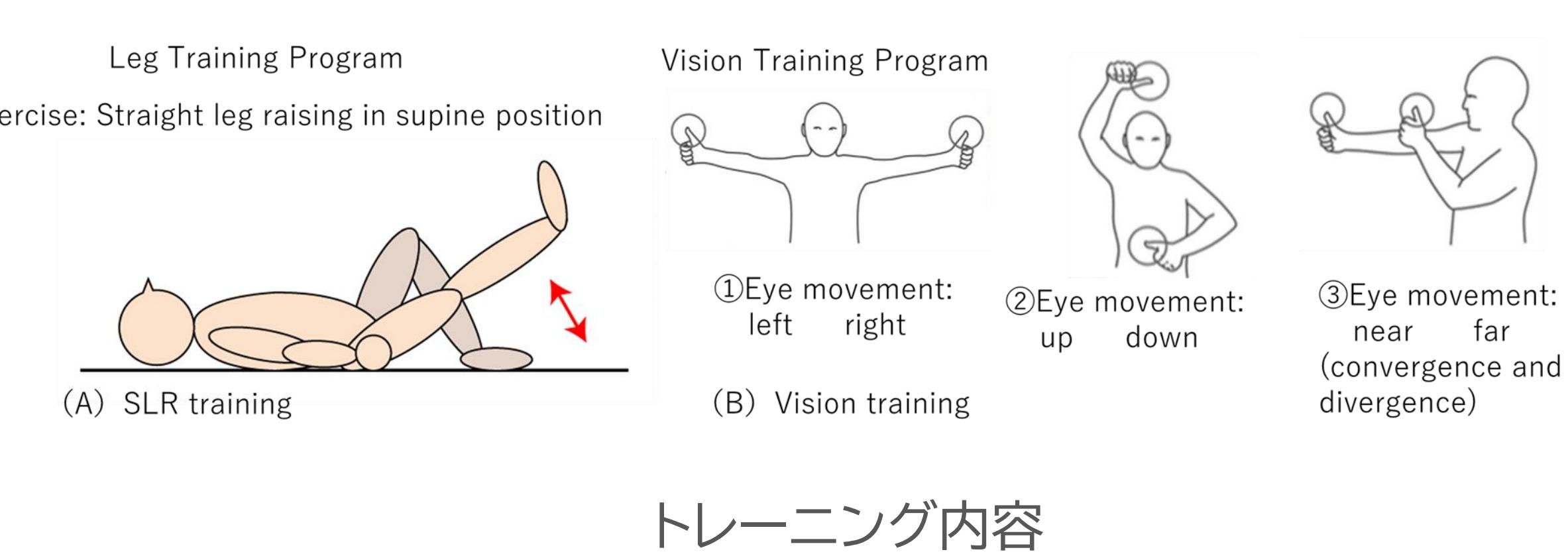
SLR群15名 vs SLR・Vision Training(SLR+VT群)15名

使用機器: ビジョントレーニングシステム

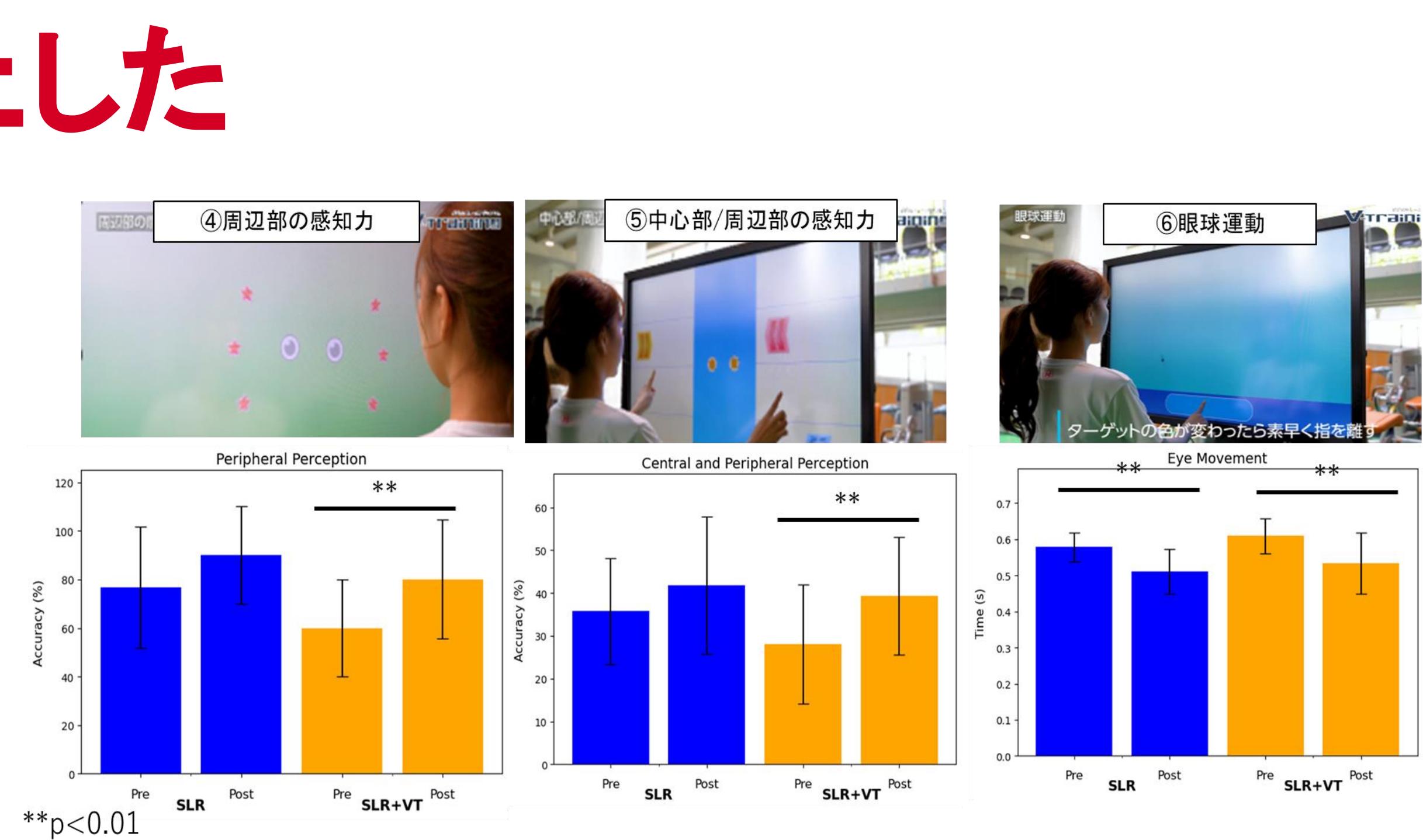
(アドバンスビジョンパートナーズ, V-training)

測定項目: ①眼と手の協応動作、②瞬間視記憶、③空間認識能力、④周辺部感知力、⑤中心部/周辺部の感知力、⑥眼球運動

## 眼と手の協調、周辺部の反応が向上した



トレーニング内容



■ ビジョントレーニングを行った群では、眼と手の協応動作、周辺部の感知力、中心部/周辺部の感知力、眼球運動が有意に向上していた。

■ ビジョントレーニングは、高齢者における視機能を向上させる手法として有効であり、日常生活や歩行での視覚-運動制御の強化に寄与する可能性が示唆された。